

## 町民の森が完成

# それは浜の母さんが 山に木を植えたことから始まった



森林に降った雨は、いったん樹木や葉、土壌の中に蓄えられ、栄養たっぷりになつて徐々に川から海へと流れ出る。魚介類のエサとなるプランクトンや、海藻を育てる養分を含み、魚や貝が豊かに育つ。魚にとつて、森は生命の源。

植物プランクトンや海藻などを育て、そしてこのプランクトンや海藻は魚介類のエサとなります。こうした背景があつて緑豊かな森林の下流域の海が豊かな漁場になり、その近くの森林が『魚つき林』となります。

### 【魚つき林の主な働き】

木陰の形成により水温上昇を防ぐ  
風量の緩和・調節  
土壌浸食の防止  
森林からの栄養分を海へ供給



## 漁業者から 地域ぐるみの活動へ

漁業者による植樹活動は、漁業者自身の漁場を守る運動ではありませんが、同時にこの活動は河川流域や沿岸域の侵食防止、河川環境や海域環境の改善を通じた生活環境の向上、生物多様性の確保など、私たちに對してもメリットをもたらしています。また、漁業者の植樹活動は地域の人々を啓発し、海の環境保全のためには森が重要であることを認識させ、地域ぐるみの植樹活動へ発展するきっかけともなっています。このようなことから町は、厚岸の豊かな海と水辺を守るうと、ラムサール条約に登録された厚岸湖・別寒辺牛川上流の保全林を買い取り、このうちの10ヘクタールを10年かけて広葉樹の町民の森にしようと計画しました。

## 町民の森が完成

平成12年、参加者256人からスタートした『町民の森造成植樹祭』は、10年の歳月をかけ、ミズナラやヤチダモなどの広葉樹21、600本と245本のサクラを植えました。10年間の参加者は述べ3、660人となり、最終年の今年も雨にも関わらず550人が参加し、10ヘクタールの森を完成させました。

今年、町民の森は完成しましたが、森林や川で起こった全てが海へと波及し、やがてその影響は森林に跳ね返ってきます。

## 女性たちの活動がきっかけ

今から21年前の昭和63年。北海道漁協女性部連絡協議会が中心となり、全国に先駆けて、豊かな森をつくろうと植樹活動が行われました。これが漁業者の組織的な植樹活動の始まりといわれており、厚岸漁業協同組合女性部もこの年、2、000本のアカエゾ松を植樹しました。

なぜ、浜の女性たちの活動が広がったのでしょうか。この当時、200海里時代の到来で多くの漁民が遠洋・沖合から撤退し前浜漁業に就くようになり、さらに、河川や海が汚染により深刻な影響が出だした頃でもあり、これらの打開のため、魚を増やすために森づくりが注目されました。

## 森林が豊かな魚場を育む

『魚つき林』という考えは古くからあり、平安時代には魚つきのための黒松林が作られ、江戸時代には海岸近くの森林が『魚つき林』と呼ばれていました。熱帯のマンダローブ林のような特別な例を除いて、森林と海が直接的に接するケースはほとんどありませんが、海と森林とのつながりは古くから認識されていたこととなります。

例えば、森林の樹木が川に落とした葉は、水生昆虫による摂食や物理的な破壊で細くなり、微細な有機物となります。また、森林に積もっている腐葉土からは、鉄分などの魚介類に必要な栄養素が川ににじみ出ています。これらが川から海へと注がれ、



森林や海、川の環境を維持することは、生物の連鎖を維持するためにも重要です。しかし、海の環境悪化は漁業関係者や森林にかかわる人々の努力だけでは防ぐことはできません。私たちの暮らしや農業、商業などを含む流域全てを視野に入れて考えなければなりません。そのためにも、もっと多くの町民の皆さんが、森林と海との関係に理解を示し、環境保全に取り組みなければならぬと考えます。

このようなことから、引き続き植樹祭を行う計画としています。浜の母さんが始めた『海の水をきれいにするため山をきれいにしよう』という取り組みを、これからも継続していきます。

●町民の森に関する問い合わせ／環境政策課 課長政係 ☎内線 251・256